

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22592365

研究課題名(和文) 実習にケアリング教育を導入するための基礎的研究 - 学生教員間の相互作用に着目して -

研究課題名(英文) Fundamental study for introducing caring education into exercise.

## 研究代表者

月田 佳寿美 (Tsukida, Kazumi)

福井大学・医学部・准教授

研究者番号：50303368

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：平成22～23年度は、教員の臨床実習における学生に対するケアリングを明らかにする目的で、看護系大学に在籍する教員18名を対象にインタビューを実施した。職位は全員が助教だった。インタビューでは、臨床指導者と連携しながら指導にあたっていること、記録の指導、グループダイナミクスへの働きかけなどが述べられ、現在分析中である。平成24～25年度は、看護系大学または専門学校に在籍している学生9名を対象にグループインタビューを実施した。インタビューでは、印象に残る教員との関わり、教員との関わりによって自分が成長できたと感じた経験などが語られ、現在分析中である。今後はデータをまとめ、論文に執筆予定である。

研究成果の概要(英文)：In the 2010-2011 school year(starting in April), we interviewed 18 teachers enrolling at the university of nursing in order to reveal caring for students in the clinical exercise of teachers. Their position were all assistant professor. In the interview, they told that they were guiding their students in cooperation with the clinical instructor and teaching them how to record, encouraging them in to group dynamics. In the 2012-2013 school year, we conducted the group interviews on 9 students enrolling at the university of nursing or the career collage. In the interview, they said about their involvement with teachers who were stood out in their memories and experience they felt the growth themselves. Those interviews are now under analysis. In the future, we are going to gather those dates and write an article.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：ケアリング 臨床実習 看護教育 相互作用 カリキュラム

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、看護学実習にケアリング教育を導入するための基礎的研究である。看護教育では、専門的な知識や技術の習得だけでなく、思いやりや倫理的感性を育み、人間性豊かな看護者を育成することが求められている。それにはケアリング教育が重要であり、その本質を学生が体得するためには、実習が重要な学習の場となっている。

実習における学生のケアリングの芽生えには、その学生に関わる教員の存在という二重のケアリングがあると言われている。そこで本研究では、教員が学生にどのようなケアリングをおこなっているのかをアンケートとインタビューから明らかにしたい。そして得られた結果を、ケアリングカリキュラムの試案作成にいかしていきたい。

### 2. 研究の目的

教員が実習の中でおこなっている学生に対するケアリングを明らかにする。

### 3. 研究の方法

研究は幅広く多くの対象から意見を聴取するための質問紙調査(第一段階)と学生との関わりについて詳細な意見を聴取するインタビュー(第二段階)で実施した。

#### (1) 第一段階 質問紙調査

##### 対象

4年制の看護系大学に勤務しており、臨床実習で学生の指導に携わっている教員 500名

##### 調査方法

質問紙調査を留め置き法で実施した。

日本看護系大学協議会電子名簿から、東海・北陸地方、関西地方の大学を中心にセレクトし、各大学の代表者宛てに、依頼文と調査用紙を郵送した。一施設あたり教員数に応じて5~20名程度とした。対象者の選定は、臨床実習で学生の指導に携わっている教員ということで、各施設に一任した。教員としての経験年数などは問わないこととした。回答後の調査用紙は、研究者宛ての返信用封筒にて郵送してもらった。

##### 調査内容

年齢、職位、臨床経験、教員の経験年数、実習担当科目について、ケアリング

教育の有無、学生に対するケアリングなど

##### 分析方法

質問項目ごとに単純集計を行った。記述式の回答は、内容を質的に分析した。

#### (2) 第二段階 教員へのインタビュー

##### 対象

4年制の看護系大学に勤務しており、臨床実習で学生の指導に携わっている教員 18名

##### 調査方法

インタビューガイドに基づいて、半構成的面接を行った。時間は1時間程度であった。対象者の許可を得て、内容を録音した。

##### 調査内容

- ・実習環境(科目、時間数、実習場所、指導者の数と指導体制、学生の人数、対象者の役割)
- ・学生に対してどのようなケアリングをおこなっているか。体系的に行っていないことも、意識して行っていることがあれば教えて下さい。
- ・学生との信頼関係をどのように築いていますか。
- ・実習で、学生の成長に関わることができ、自分もやりがいや成長を感じた体験があれば、どのような体験だったのか教えて下さい。

##### 上記質問で答えづらいような場合

- ・印象に残っている学生との関わりについて教えて下さい。

##### 分析方法

インタビューの内容を逐語録におこし、質的帰納的に分析した。

#### (3) 第二段階 学生へのインタビュー

##### 対象

4年制の看護系大学、または3年制の専門学校、短期大学に在籍しており、臨床実習の経験がある3年生の学生 9名

##### 調査方法

4~5名のグループインタビューを行った。インタビューガイドに基づき、半構成的面接を行った。時間は1時間程度であった。対象者の許可を得て、内容を録音した。

##### 調査内容

- ・学年

- ・すでに終了した実習科目とその概要(科目, 時間数, 実習場所, 指導者の数と指導体制, 学生の人数)
- ・教員から受けたケアリングについて教えてください。
- ・教員からの関わりで自分が成長できたと感じた体験があれば教えてください。

#### 上記質問で答えつらそうな場合

- ・印象に残っている教員との関わりについて教えてください。
- 分析方法  
インタビューの内容を逐語録におこし、質的帰納的に分析した。

## 4. 研究成果

### (1) 第一段階 質問紙調査

調査は、平成 23 年 3 月に実施し、96 名から回答が得られた(有効回答率 19.2%)。職位は助手から教授まで幅広い職位から回答が得られた。ケアリングが大学の教育理念やカリキュラムに位置づけられているのは 21.9%だった。92.7%は、学生に対するケアリングは重要であると考えていたが、実施していたのは 59.4%だった。学生の成長に関わることができ、自分も成長を感じた体験は 72.9%がありと答えた。しかし、実習の成果について満足している教員は 67.7%で、満足していないと答えた教員も多かった。以上の結果より、多くの教員は職位に関わらずケアリングは重要だと考えており、何らかのことは行っていた。学生の成長に関わった体験のある教員も多かったが、実習の成果には満足していない教員も多いことが分かった。

### (2) 第二段階 教員へのインタビュー

調査時期は、平成 23 年 3 月～25 年 3 月だった。対象は、看護系大学に勤務しており、臨床実習で学生の教育によく携わっている教員 18 名であった。職位は全員が助手または助教で、専門分野は基礎看護学 3 名、臨床看護学 15 名であった。以下、平成 23 年度の調査対象者 10 名の語りについて結果を述べる。平成 25 年度の調査対象者 8 名の語りについては、現在分析中である。

総コード数は 526 で、12 のサブカテゴリー、6 のカテゴリーにまとめられた。6 のカテゴリーは、【実習を後押しする】【学生を理解する】【グループダイナミクスを育てる】【看護師として成長できるよう関わる】【教員としての自己を成長させる】【実習科目特有の問題に対応する】であった。

#### 【実習を後押しする】

コード数は 122 で、<学生の行動を後押しする><学生が困らないようにする><スタッフ間の協力>の 3 つのサブカテゴリーから構成された。

#### 【学生を理解する】

コード数は 177 で、6 のカテゴリー中も

っとも多かった。<学生と話をする><学生の状況を推し量る>の 2 つのサブカテゴリーから構成された。

#### 【グループダイナミクスを育てる】

コード数は 45 で、<グループダイナミクスを育てる>の 1 つのサブカテゴリーから構成された。

#### 【看護師として成長できるよう関わる】

コード数は 120 で、<看護の思考を鍛える><看護と実習が嫌いにならないようにする><服装と態度は厳しく言う><看護師としての成長を考えて関わる>の 4 つのサブカテゴリーから構成された。

#### 【教員としての自己を成長させる】

コード数は 53 で、<教員としての自己を成長させる>の 1 つのサブカテゴリーから構成された。

#### 【実習科目特有の問題に対応する】

コード数は 9 で、<実習科目特有の問題に対応する>の 1 つのサブカテゴリーから構成された。

### (3) 第二段階 学生へのインタビュー

調査時期は平成 24 年 3 月～25 年 7 月だった。対象は看護系大学に在籍しており臨床実習の経験がある 3 年生 4 名(A グループ)ならびに、看護系専門学校に在籍しており臨床実習の経験がある 3 年生 5 名(B グループ)であった。いずれもグループインタビューを実施した。インタビューでは、実習グループ内の人間関係を調整してもらったことや、患者との関わりが不慣れな時期に、間に入って調整してもらったことなどが語られた。詳細については現在分析中である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

月田 佳寿美 (TSUKIDA, Kazumi)  
福井大学医学部・准教授  
研究者番号: 50303368

### (2) 研究分担者

酒井 明子 (SAKAI, Akiko)  
福井大学医学部・教授  
研究者番号：30303366

繁田 里美 (SHIGETA, Satomi)  
福井大学医学部・准教授  
研究者番号：20446165

清水 誉子 (SHIMIZU, Takako)  
福井大学医学部・助教  
研究者番号：00554552